

岡山県高等学校教育研究協議会

第6回会議 説明資料

開催日:令和8年10月6日(火)

場 所:岡山県庁3階大会議室

●「生徒に身につけてほしい資質・能力」(これまでの会議での高教研委員の発言から)

岡山県高等学校教育研究協議会

- ・主体性(自己決定力) ・情熱(パッション) ・挑戦する心
- ・他者を尊重する姿勢 ・協働する力 ・協調性
- ・自己調整力 ・自己理解力(自己認識力)



「情熱を胸に、他者と協働して変化を乗り越え、未来を切り拓く挑戦者」

【参考】

第4次岡山県教育振興基本計画(令和7年2月策定)

(本県が目指す教育の姿)

基本目標	「夢に向かって、心豊かに、たくましく、未来を拓く」人材の育成
育みたい資質能力	○確かな学力と自ら挑戦する意欲や創造性 ○豊かな心・健やかな体 ○地域を大切にする心と社会の形成者としての自覚

公立・私立高等学校の教育分担について

目 次

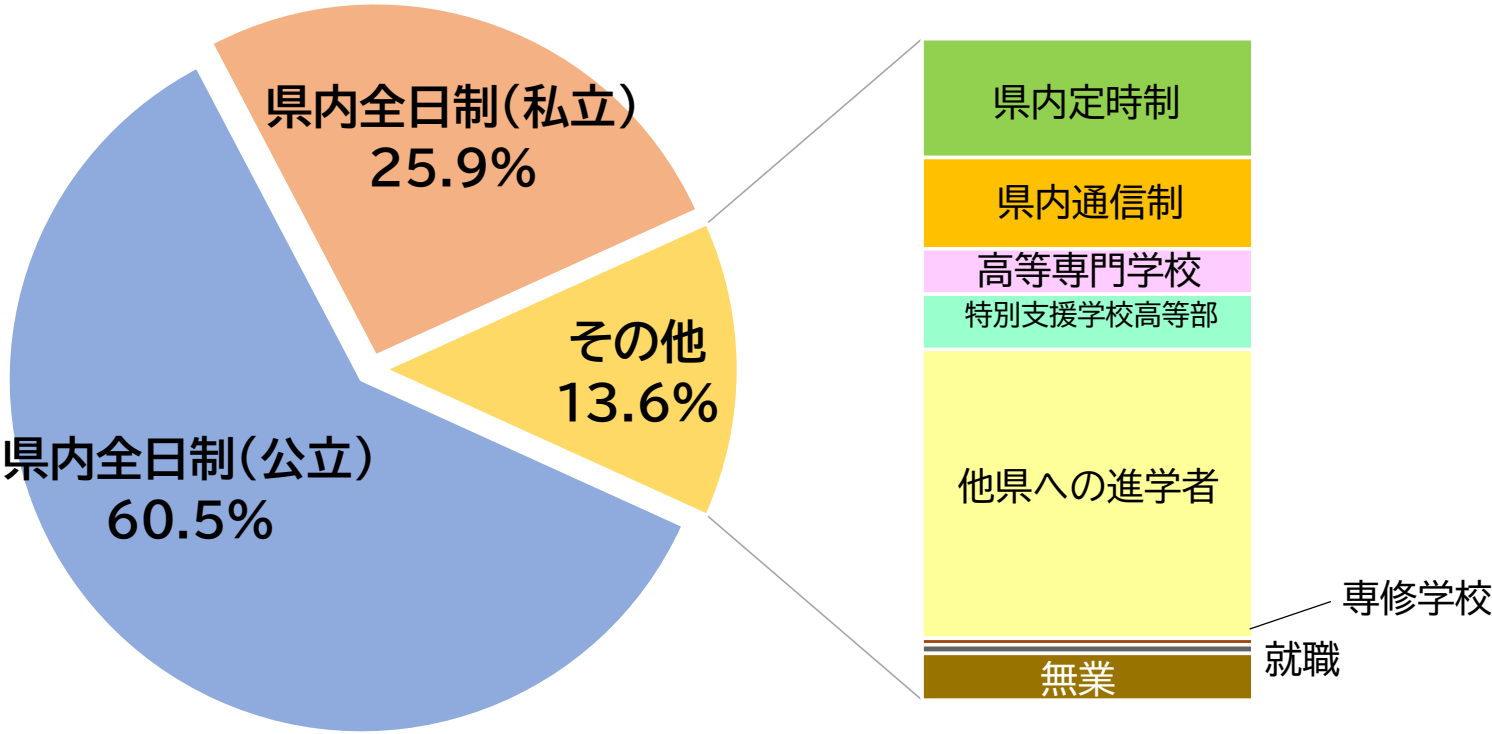
- ① 公私比率について
- ② 募集定員策定について
- ③ 私立高校の役割と現状
- ④ 公私比率における他県状況
- ⑤ 専門委員会の協議状況
- ⑥ 研究協議

① 公私比率について

公私比率とは、県内全日制高等学校への生徒受入れを
公立と私立が分担する割合のこと

①-1 中学校卒業後の進路状況(令和8年3月)

高等学校等進学率は98.8%(16,540人)



①-2 公立・私立高等学校の教育分担とは(全日制)

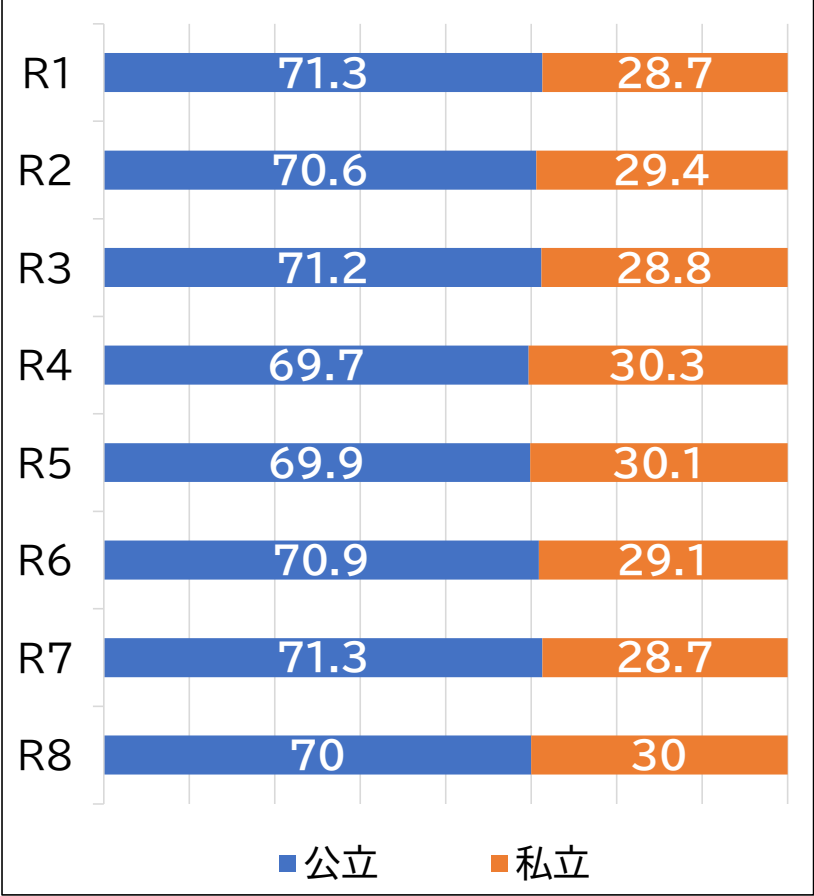
○ 基本的な考え方

- ・公立と私立が互いに協調しながら公教育を分担し、高等学校への進学希望者に対する教育の機会確保及び本県高等学校教育水準の維持・向上に努める。

○ 現状

- ・県内中学校3年生対象の進学希望調査(5月1日現在)の全日制高等学校進学希望率を基本に、県内全日制高等学校進学見込者数を設定し、それを公立と私立が70:30の割合で分担している。

【公立私立別受入実績(%)】



(岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室調べ)

①-3 公私比率設定の経緯

○ 昭和30年代後半の生徒急増期

「岡山県高等学校生徒急増対策研究協議会 答申」(昭和36年5月)

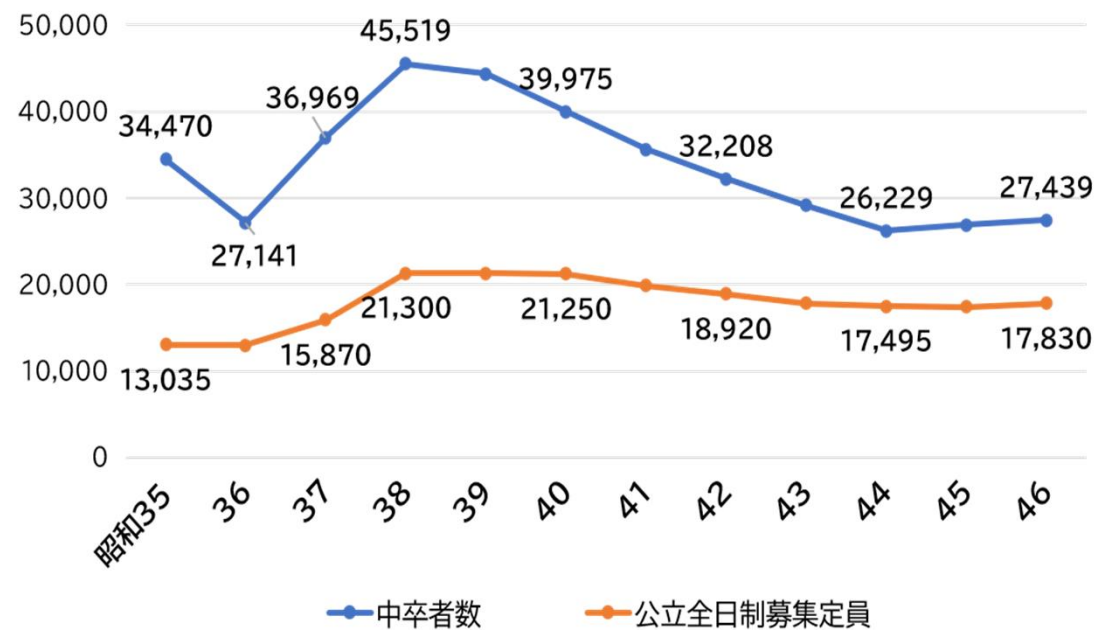
- ・過去の実績を尊重し、公立高校への進学者を全進学者のおよそ70%として、…(中略)…収容することが適当である。

○ 昭和58年度以降の生徒急増期

「昭和65年度を目途とする県立高等学校教育体制の整備について(答申)」(昭和57年2月)

- ・本県の高等学校進学機会を安定的に維持するためには、公立高等学校が協力して受け入れ態勢を整備する必要がある、…(中略)…、公立75%、私立25%程度とするのが適当である。

昭和30年代後半(生徒急増期)以降の中学校卒業者数と公立全日制高等学校募集定員の推移



岡山県教育史（昭和31年～50年）資料を基に作成

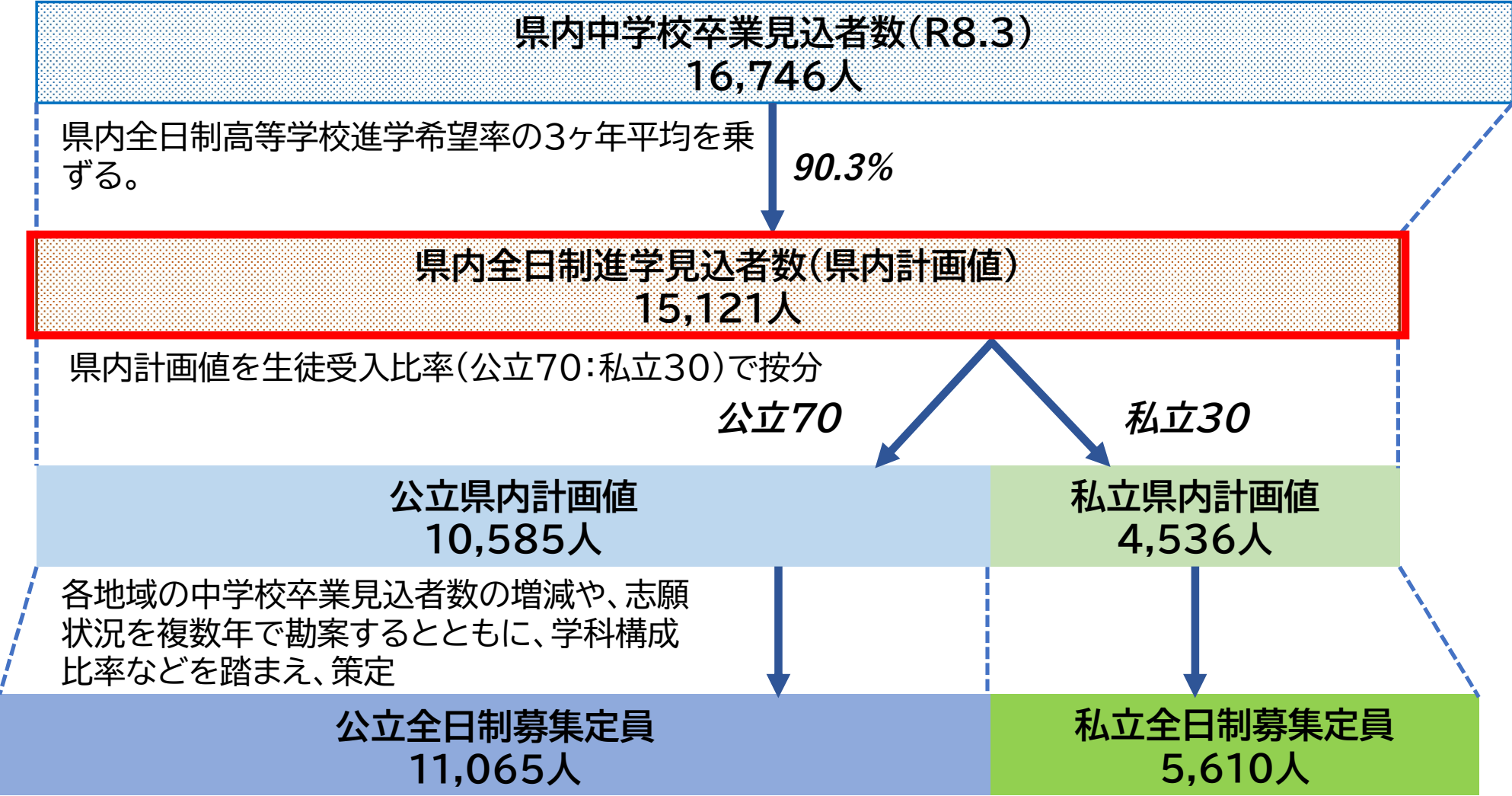
①-4 これまでの高教研における提言とその後の対応

年代	提言内容
H20目途 (H12.2)	・現状、公立75%:私立25%であるが、私立の役割への配慮とともに、民間活力の活用促進など社会の大きな流れを考慮し、70:30とすることが考えられる。→段階的に比率を変更し、H17から70:30とした。
H30目途 (H23.11)	・当面70:30を継続するが、比率を変更したことに伴う様々な影響※が生じており、公立と私立は協力して、県内生徒募集定員の充足率や全日制高等学校進学率の改善等に向けた努力を行うことが不可欠である。 →70:30を維持
H40目途 (H29.11)	・本県高校教育の機会確保と安定的な維持のためには、公立と私立が切磋琢磨しながらも、協力して生徒受入体制を整備していくことが望ましいことから、公立と私立の生徒受入比率は、70:30を継続することが適当である。→70:30を維持

※比率を変更したものの、実際に私立高校が計画値に近い数を受け入れるまでに時間がかかった。

② 募集定員策定について

②-1 全日制生徒募集定員の策定方法(令和8年度)



岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室で作成

②-2 県内全日制高等学校の計画値及び実績値等

県 内		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
中学校卒業者数		17,691	17,277	16,773	17,163	17,258	16,912	16,654	16,739
全日制進学見込者数 (計画値)		16,507	16,097	15,573	15,844	15,811	15,413	15,109	15,121
進学者数(実績値)		16,052	15,586	15,017	15,286	15,170	14,803	14,521	14,485
計画値との差		▲455	▲511	▲556	▲558	▲641	▲610	▲588	▲636
公 立	計 画 値	11,555	11,268	10,901	11,091	11,068	10,789	10,576	10,585
	実 績 値	11,451	11,002	10,692	10,653	10,601	10,499	10,357	10,138
	計画値との差	▲104	▲266	▲209	▲438	▲467	▲290	▲219	▲447
私 立	計 画 値	4,952	4,829	4,672	4,753	4,743	4,624	4,533	4,536
	実 績 値	4,601	4,584	4,325	4,633	4,569	4,304	4,164	4,347
	計画値との差	▲351	▲245	▲347	▲120	▲174	▲320	▲369	▲189

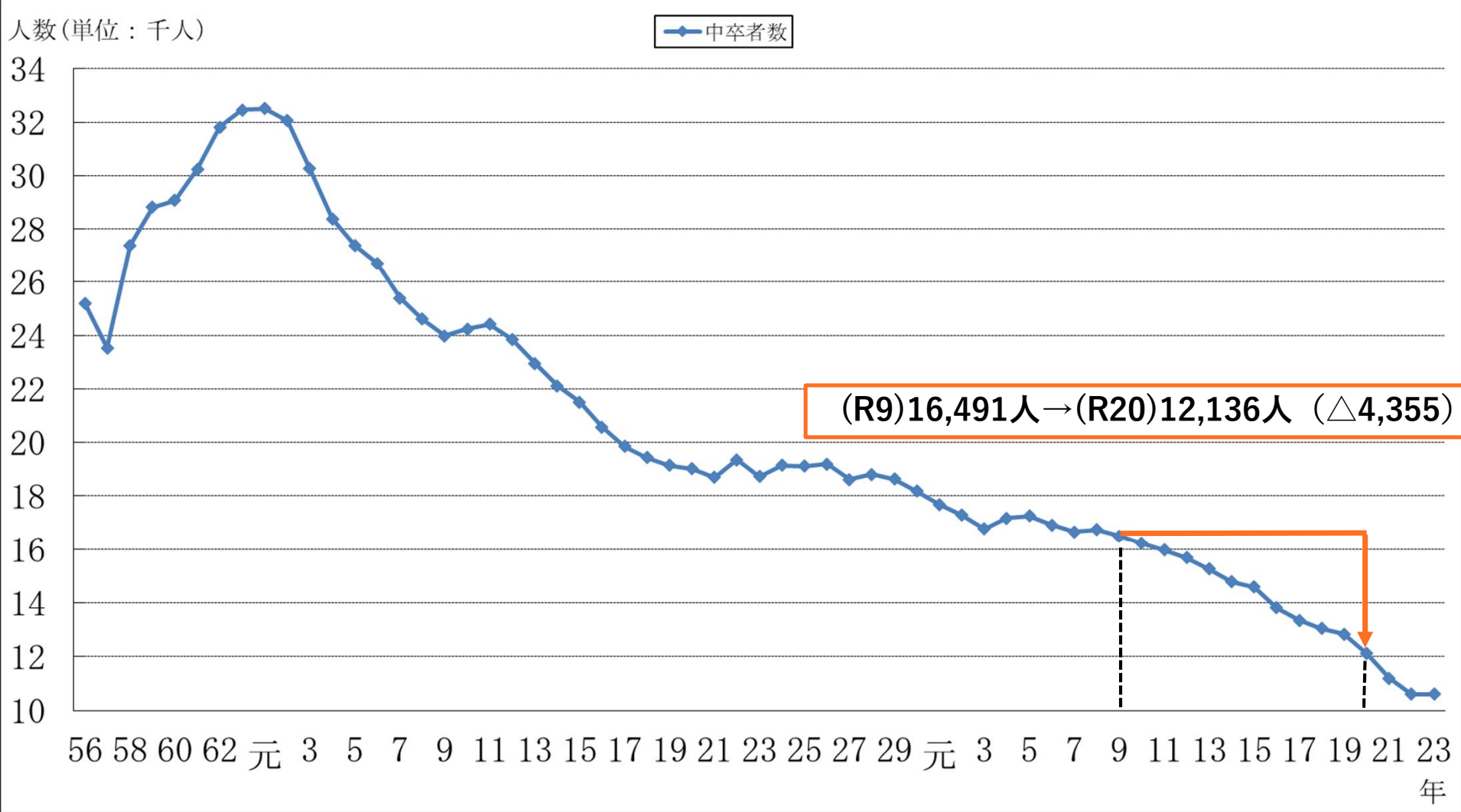
岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室調べ

②-3 中学校卒業見込者における全日制高校進学希望率と実績率の推移

	希望率(中3.5.1)	実績率(高1.5.1)	希望率と実績率の差
R1	93.3%	90.7%	2.6
R2	93.1%	90.2%	2.9
R3	92.9%	89.5%	3.4
R4	92.3%	89.1%	3.2
R5	91.8%	87.9%	3.9
R6	91.2%	87.5%	3.7
R7	90.7%	87.2%	3.5
R8	90.3%	86.5%	3.8

※希望と実績の差は、定時制・通信制への進学、県外への進学等によるもの

②-4 県内の中学校卒業(見込)者数の推移



岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室調べ

②-5 中学校卒業者数(見込)に対する計画値(仮)の比較

	中卒者数 (見込)	計画値	公私比率	公立計画値	私立計画値
R9	16,491	14,842	70:30	10,389	4,453
R20	12,136	10,922	70:30	7,645	3,277

※R9及びR20計画値については、中学校卒業見込者数に令和9年度の全日制進学率(90.0%)を乗じて算出している。

②-6 公立と私立高校における計画値と募集定員の差の推移

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R8-R1
公立	計画値	11,555	11,268	10,901	11,091	11,068	10,789	10,576	10,585	▲970
	募集定員	11,980	11,760	11,500	11,325	11,285	11,100	11,065	11,065	▲915
	計画値との差	425	492	599	234	217	311	489	480	
私立	計画値	4,952	4,829	4,672	4,753	4,743	4,624	4,533	4,536	▲416
	募集定員	5,612	5,645	5,600	5,600	5,670	5,670	5,640	5,610	▲2
	計画値との差	660	816	928	847	927	1,046	1,107	1,074	

②-7 公立全日制高校の定員及び在籍生徒数等(令和8年度)

学校名	募集 定員	名目志願 倍率※	第1学年 生徒数	定員 充足率
岡山朝日	320	0.93	298	93.1%
岡山操山	280	1.08	283	101.1%
岡山芳泉	320	1.18	320	100.0%
岡山一宮	320	1.13	320	100.0%
岡山城東	320	1.28	320	100.0%
西大寺	280	1.28	280	100.0%
瀬戸	160	0.91	142	88.8%
高松農業	200	0.97	190	95.0%
興陽	200	1.18	200	100.0%
瀬戸南	120	1.07	120	100.0%
岡山工業	320	1.15	320	100.0%
東岡山工業	280	1.01	282	100.7%
岡山東商業	320	1.25	320	100.0%

学校名	募集 定員	名目志願 倍率	第1学年 生徒数	定員 充足率
岡山南	320	1.14	320	100.0%
岡山御津	120	1.00	121	100.8%
倉敷青陵	320	1.13	320	100.0%
倉敷天城	240	1.05	240	100.0%
倉敷南	320	1.01	320	100.0%
倉敷古城池	280	1.15	280	100.0%
倉敷中央	280	1.07	280	100.0%
玉島	240	0.88	213	88.8%
倉敷鷺羽	160	0.69	114	71.3%
倉敷工業	320	1.00	315	98.4%
水島工業	280	0.98	271	96.8%
倉敷商業	320	1.18	321	100.3%
玉島商業	160	1.10	160	100.0%

岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室調べ

※(特別入学者選抜合格内定者数+一般入学者選抜志願者数)／募集定員

②-8 公立全日制高校の定員及び在籍生徒数等(令和8年度)

学校名	募集 定員	名目志願 倍率	第1学年 生徒数	定員 充足率	学校名	募集 定員	名目志願 倍率	第1学年 生徒数	定員 充足率
津山	240	0.93	217	90.4%	新見	145	0.45	64	44.1%
津山東	200	1.01	192	96.0%	備前緑陽	120	0.93	108	90.0%
津山工業	240	0.93	218	90.8%	邑久	120	1.11	120	100.0%
津山商業	160	0.95	149	93.1%	勝山	160	0.80	132	82.5%
玉野	160	0.70	111	69.4%	真庭	120	0.62	73	60.8%
玉野光南	240	0.98	227	94.6%	林野	120	0.55	66	55.0%
笠岡	160	0.72	119	74.4%	鴨方	120	0.75	92	76.7%
笠岡工業	120	0.68	85	70.8%	和気閑谷	120	0.65	92	76.7%
笠岡商業	120	0.94	122	101.7%	矢掛	120	0.56	70	58.3%
井原	160	0.68	115	71.9%	勝間田	120	0.58	74	61.7%
総社	240	0.93	219	91.3%	岡山大安寺中等	160	-	157	98.1%
総社南	240	1.12	240	100.0%	岡山後楽館	160	1.10	160	100.0%
高梁	160	0.92	145	90.6%	玉野商工	120	0.79	99	82.5%
高梁城南	120	0.96	118	98.3%	計	11,065	0.99	10,254	92.7%

②-9 私立全日制高校の定員及び在籍生徒数等(令和8年度)

学校名	募集定員	第1学年生徒数			定員充足率
		計	うち、県外出身者	うち、県内出身者	
関 西	420	260	37	223	61.9%
岡山商科大学附属	270	255	36	219	94.4%
山陽学園	250	260	5	255	104.0%
就 実	450	566	38	528	125.8%
創志学園	210	247	40	207	117.6%
明誠学院	370	351	17	334	94.9%
岡山理科大学附属	400	362	52	310	90.5%
岡山学芸館	425	450	142	308	105.9%
岡 山	160	83	19	64	51.9%
倉 敷	330	389	30	359	117.9%
倉敷翠松	355	239	12	227	67.3%
清心女子	160	124	5	119	77.5%

②-10 私立全日制高校の定員及び在籍生徒数等(令和8年度)

学校名	募集定員	第1学年生徒数			定員充足率
		計	うち、県外出身者	うち、県内出身者	
川崎医科大学附属	35	27	24	3	77.1%
作陽学園	240	267	90	177	111.3%
岡山県美作	270	233	1	232	86.3%
岡山龍谷	200	271	164	107	135.5%
興 譲 館	90	51	30	21	56.7%
方谷學舎	80	28	10	18	35.0%
岡山県共生	80	47	10	37	58.8%
岡山白陵	160	149	94	55	93.1%
金光学園	180	143	33	110	79.4%
おかやま山陽	325	378	122	256	116.3%
吉備高原学園	100	68	45	23	68.0%
朝日塾中等	50	44	21	23	88.0%
計	5,610	5,292	1,077	4,215	94.3%

岡山県総務部総務学事課調べ

③ 私立高校の役割と現状

③-1 私立高校の役割と現状

○ 役割

- ・私立学校は、公教育の重要な一翼を担っており、それぞれ独自の建学の精神と教育方針のもとに、特色ある教育を行っている。
- ・現在の多様なニーズに対応する上で、私立高校は受け入れ先として重要な役割を担っている。

○ 現状

- ・公立にはないユニークな学科やコースが設けられており、一人ひとりの個性や進路に合わせた選択ができる。
- ・部活動も盛んで、各種全国大会で成果を上げている。
 - 関西 硬式テニス部 全国選抜高校テニス大会 団体優勝(R7)
 - 山陽学園 卓球部 インターハイ個人シングルス 優勝(R7)
 - 就実 バレーボール部 全日本バレーボール高等学校選手権大会 優勝(R5)
 - 岡山学芸館 サッカー部 全国高等学校サッカー選手権大会 優勝(R4) など
- ・高い進学実績を上げている学校もある。
(令和8年度大学合格実績) 就実 京都大学1名、岡山白陵 東京大学8名 など

④ 公私比率における他県状況

④-1 全国の公私比率の策定状況(令和8年度)

	設定あり	設定なし
都道府県数	25	22



※濃い茶色は、公私比率の設定あり

「令和7年度公私立高等学校協議会に関する諸問題の調査報告」（対象R7年度中学3年生）を基に、岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室で作成

④-2 公私比率を設定していない都道府県(富山県)

○ 公私比率を設定しないこととした経緯

- ・公立高等学校連絡会議において公私合意のもとで公私比率を決定することとしており、平成14年度以降は3年ごとに決定していた。
- ・令和4年度の連絡会議において、公私比率見直しの声上がり、協議を重ねた結果、令和6年度の連絡会議で、「令和8年度以降、公私比率は設定せず、各設置者が適正な定員管理を行う」という方針で合意した。

○ 公私比率を設定しないことに係る考え方

- ・生徒数の減少や進路選択の多様化が進む状況も踏まえ、公私双方がより柔軟な発想で創意工夫を凝らし、県の高校教育の魅力を一層高めていくため

○ 県立高校(全日制)における募集定員策定の方法

- ・学級定員は、40人を標準とする。
- ・普通科系学科と職業系専門学科の割合は、これまでの状況に配慮する。
- ・生徒のニーズや学びの場の確保の観点等から、各県立高校の学科毎に学級数・募集定員を設定する。
 - ①「近年の中学校別志願状況」を基に、「各中学校の卒業予定者数」から各県立高校の学科毎に志願者数を推計し、学級数・募集定員を設定する。
 - ② ①を原則としつつ、県立高校が担うべき「学びの場の確保」の観点から、職業系専門学科については、必要に応じて少人数学級とすることにより学級数を維持する。
 - ③ 激変緩和の観点から、1学級を超える学級減は行わない。

④-3 毎年度の公私協議を踏まえ募集定員を策定している都道府県(三重県)

○ 募集定員策定の概要

- ・県立高校と私立高校それぞれの募集定員総数については、「三重県公立高等学校協議会（公私協）」での協議を経て策定している。
- ・公私協では、「高等学校生徒募集定員に係る公私比率等検討部会」がまとめた「令和9年度までの募集定員の公私比率等について」を踏まえ協議することとしている。
- ・募集定員総数が策定された後は、県教育委員会と私立高校それぞれが学校ごとの募集定員を策定している。

○ 募集定員策定の流れ

- | | |
|-------------|--|
| ・第1回公私協 | 中卒者の進路状況及び県立と私立高校の入学状況等について検証 |
| ・第2回公私協 | 県内全日制高校入学見込み人数に対する県立高校と私立高校の募集定員総数について協議 |
| ・教育委員会定例会 | 第2回公私協での協議を踏まえ、県立高校の募集定員総数を審議、決定 |
| ・教育委員会定例会 | 各県立高校の入学定員について審議・決定し、公表 |
| ・私立高校募集定員公表 | 県私学協会が各私立高校の募集定員をとりまとめ公表
(県立高校の公表と同日) |

⑤ 専門委員会の協議状況

⑤-1 公立・私立高等学校の今後の在り方

- ・引き続き、公立と私立が共に公教育の担い手として互いに切磋琢磨し、高等学校教育の質の向上を目指すことが望ましい。
- ・生徒の学びのニーズは、全日制に加え、定時制、通信制、特別支援教育など多様化している。こうした多様なニーズに応え、生徒が自らに合った学びの場を選択できるよう、公立と私立がともに高校教育を支えていくことが必要である。
- ・公立は、県が定める基本計画に基づいて教育を実践しているため、学校間に一定の共通性があり、教育の均一性が担保されている点が特色である。一方、均一性の枠組みの中にも各校の独自性があり、安定感や安心感のもとで多様な学校から選択できることも、公立の良さとする。

⑤-2 公私比率の今後の方向性

方向性	方向性に対する考え方	実施後に起こりうること
70:30 を維持	・現状、公立と私立のバランスが取れている。 ・中学校現場の感覚としても、中学生が概ね70:30の割合で公立・私立を選択しているように感じる。	・中卒見込者数の減少に伴い、公立・私立ともに募集定員の削減が必要である。 ・今後、高校を取り巻く環境の変化により進学動向が変化した場合、比率変更等の対応が必要である。 ・比率を設定することで、これまでと同様の定員策定が可能。
比率変更 (60:40 など)	・高校授業料無償化による私立志向の高まりや、私立高校の経営上の観点から、私立の比率を引き上げてはどうか。 ・県立高校の学力レベルの維持に向けた定員管理の観点からも、私立の比率を引き上げてはどうか。	・公立で、大幅な募集定員の削減が必要となる。 ・現在の実績を踏まえると、計画値との大きな乖離が生じる可能性がある。 ・比率を設定することで、これまでと同様の定員策定が可能。

【参考】 中学校卒業生数(見込)に対する計画値(仮)の比較

		70:30		60:40	
		公立	私立	公立	私立
R8	計画値	10,585	4,536		
	募集定員	11,065	5,610		
R11	計画値	10,134	4,343	8,686	5,791
R20	計画値	7,645	3,277	6,553	4,369
R8-R20	計画値	▲2,940	▲1,259	▲4,032	▲167

※R11及びR20計画値については、中学校卒業見込者数に令和9年度の全日制進学率(90.0%)を乗じて算出している。

⑤-3 公私比率の今後の方向性

方向性	方向性に対する考え方	実施後に起こりうること
比率を設定しない	・公私比率は生徒急増期の受入れ分担を目的に設定されたものであり、10年後の生徒減少を見据えると、比率設定の意義は薄れている。今後は、数から考えず、公私それぞれの教育の在り方を整理することが重要である。 ・公私比率は全日制のみを対象としているが、近年、定時制や通信制への進学者が増えている。	・公私共に、それぞれの教育活動の状況に応じた募集定員を定めることが可能となる。 ・募集定員の策定について、公立と私立が協議する場の必要性について検討する必要がある。 ・公立高校の募集定員策定について、考え方や手法を別途明確にする必要がある。
比率を地域によって設定	・現在は全県一律に設定されているが、都市部と中山間地域では、学校・学科の配置状況や定員の充足状況等が異なることから、地域の状況を鑑みる必要がある。	・「地域によって」の「地域」を定義することが難しい。 ・地域間の公平性を確保した比率の設定は難しい。

⑤-4 公立高等学校の募集定員策定に当たって

- ・今後の少子化の中においても、生徒の多様なニーズに対応し、生徒が主体的に学校を選択できるよう、複数年の過去の実績、中卒者数や志願状況などを基に募集定員を策定することが望ましい。
ただし、中山間地域の県立高校の小規模化が進行する恐れがあることから、地域のニーズや人材育成の観点を踏まえた上で定員を策定することが大切である。
- ・定員削減によって教育内容や専門的な学びの維持が困難となることを避けるためにも、地域の実情や学校の役割を踏まえ、地域・産業界・自治体等と連携しながらどのような学校にしていくなか、という視点から定員を考える必要がある。
- ・生徒のニーズが高い学校の募集定員を増加させることは、県立高校への進学機会の拡大につながる一方、各校のスクール・ポリシーに示す「求める生徒像」と入学者の実態との間に乖離が生じる可能性や、入学後の学校生活における学校と生徒とのミスマッチにつながる可能性もあることから、こうした状況を踏まえて募集定員を検討する必要がある。
- ・部活動、合格可能性などが生徒にとって高校を選ぶ要素となっている実情も踏まえて、募集定員を策定することが大切である。

⑥ 研究協議

(研究協議) 「公立・私立高等学校の教育分担」について

協議

- ① 本県の現状と課題を踏まえ、これからの高校生に求められる資質・能力を育む観点から、公私比率(県内全日制高等学校への生徒受入れを公立と私立が分担する割合)を含めた公立と私立の在り方について、どのように考えるか。
- ② 公立高等学校における募集定員の策定について、どのように考えるか。